天国も地獄と変わらない？『グッド・オーメンズ』　2019年9月

眞鍋由比

　スクリーン8月号にのっている「名作ホラーBEST10」の記事にある「オーメン」1976。ダミアンという悪魔の子が大統領補佐官の家に入り込み、自分を疑う人間を次々始末していくホラー映画で、ガラス屋さんが坂道でトラックの荷台から滑り落ちてきたガラス板でクビをちょん切られ、それがガラスの上でくるくる回るシーンは何十年たっても強烈です。
　で、今回紹介する本は**『グッド・オーメンズ』**上・下　ニール・ゲイマン、テリー・プラチェット共著　角川文庫　2019

　きたる天国と地獄の最終戦争（ハルマゲドン）、それを悪魔の子・反キリストが始めるといわれていて、人間界に慣れ親しんだ天使アジラフェルと悪魔クローリーがこの世界を変えてほしくないと、手を組むお話。
　そもそも最初に悪魔の子を、取り違えてしまい、それぞれが家庭教師・庭師として大統領補佐官の家に入り込むのに、地獄の番犬が来ない。もう地獄を出たと言われているのに。え、もしや
　違う人の家にいっちゃったの？
　そして平凡な家で育てられた悪魔の子は？来るべきハルマゲドンはどうなるの？
おとぼけな天使と気取った悪魔の取り合わせが妙で、かなりブラックユーモアあふれるファンタジーになっています。

　もちろんベースとなった「オーメン」の話も踏襲されていて、悪魔崇拝のシスターがダミアンという名前を推したり、三輪車でお母さんを流産させた話を悪魔のクローリーがほのめかしたり。
　クローリーの車に二週間テープをおいておくと、全部クイーンのベスト盤になったり。一番受けたのは天国には作曲家がいない。エルガーくらいで、ベートーヴェンもバッハもみ～んな地獄にいるとのこと。

今年の5月にアマゾンプライムでドラマ化され、著者の一人ニール・ゲイマンが監督しています。
　ドラマでは四騎士のひとり「汚染」が女性になっていたので、原作小説と違うと思っていたら
　ニールの話では四騎士（死、飢餓、戦争、疾病→汚染）はノンバイナリー（男性でも女性でもない）だからと答えていて、なるほどと思いました。まさに現代の物語ですね。

　アダムとイブが、りんごを食べてしまったときの蛇が悪魔クローリーなのですが、彼曰く「どうしてすぐ手にとどくところにりんごを置いておくんだよ。山の上に置いておけば誰も食べないのに。善悪の違いを知ることがそんなに悪いことか？」

ドラマでもノアの箱舟に乗り込む一行を見ながら神がほかの人間たちを亡ぼすとアジラフェルに聞いて「子どもまでもか？」とうめく。神のすることに疑問を持ってしまうのがクローリーが悪魔である所以なんでしょうね。
　でも彼は、人間たちの方がうまく悪事を思いつくからここ千年仕事がむずかしく感じていました。地獄も降参するほどの邪悪さと天も想像できないほどの善良さを同一人物が示したりするから。

そして堕天使でもあるクローリーは天国は多くの点で地獄と似通った場所だと知っていました。どうしてでしょう。
　魅力的なクローリー（悪魔）をドクター・フーでもあるデイヴィッド・テナントが、天使をマイケル・シーンが演じています。

　実は昔、映画でテリー・ギリアムの監督で天使をロビン・ウィリアムズ、悪魔をジョニー・デップが演じる企画があったそうですが、9・11でなくなったそうえす。著者で今回のドラマシリーズの監督でもあるニール・ゲイマンはキャスティングを70年代ならマイケル・ペイリン（天使）、デイビッド・ボウイ（悪魔）、90年代ならヒュー・グラント（天使）、アラン・リックマン（悪魔）とキャスティングを答えています。
どのペアも魅力的ですね。